

「^{センス}感性」で切り開け！

平成23年は、我が国の歴史を画した年として、記録と記憶に残されることでしょう。

3月11日、東日本全体を巨大地震が揺るがし、1000年に一度と言われる巨大津波が太平洋沿岸の多くの街を襲いました。この日を境にして、我が国の「戦後」が終わり「災後」が始まると記した識者がいました。ギリシャの財政危機に端を発したヨーロッパ諸国の信用不安は、極端なユーロ安をもたらし、円・ドルの為替相場も史上最高の円高水準を記録しました。さらに、先ごろ詳細が公表された平成22年の国勢調査では、初めて日本人の人口が前回調査と比べて減少し、高齢化率も世界で最も高くなりました。

我が国は、時代の大きな転換期を迎えています。しかも、先の見通せない答えのない世界に突入しています。政治、経済、社会、文化の全ての分野において、これまでにない発想と実践による創造的革新（クリエイティブ・イノベーション）が必要です。

5年ほど前にベストセラーとなった「ハイコンセプト」という本（※）に、新しい時代を切り開いていくためには「六つの^{センス}感性」を磨いていくべき、という指摘があります。①機能だけでなく「デザイン」②議論よりは「物語」③個別よりも「全体の^{シンフォニー}調和」④論理ではなく「共感」⑤真面目だけではなく「遊び心」⑥モノよりも「生きがい」、です。

今年10月に亡くなったアップル社の創始者であり、カリスマ経営者と呼ばれたスティーブ・ジョブズ氏は、この「^{センス}感性」を重要視し、一時代を築いた偉人でしょう。彼はデザインに徹底的にこだわり、自ら演出し五感に訴えるプレゼンテーションは、リサイタルのようで達人と称されました。有名になったスタンフォード大学の卒業式での演説では、「一番大事なことは、勇気を持って心と直感が命ずるところに従うことだ。」と説いています。

困難な時代であることは間違いありません。だからこそ、自らの「^{センス}感性」を磨き、それを十分に働かせ、人生を切り開いていくことが求められているのです。

（※）「ハイコンセプト」ダニエル・ピンク著、大前研一訳（三笠書房）